

レイヴエリアス戦記
囚われの女騎士、
囚われの姫

漫画演出版

宿借り源八郎

レーヴェリアス戦記
囚われの女騎士、囚われの姫





囚われの女騎士、囚われの姫
レーヴェリアス戦記

レ
ー
ヴ
ェ
リ
ア
ス
戦
記



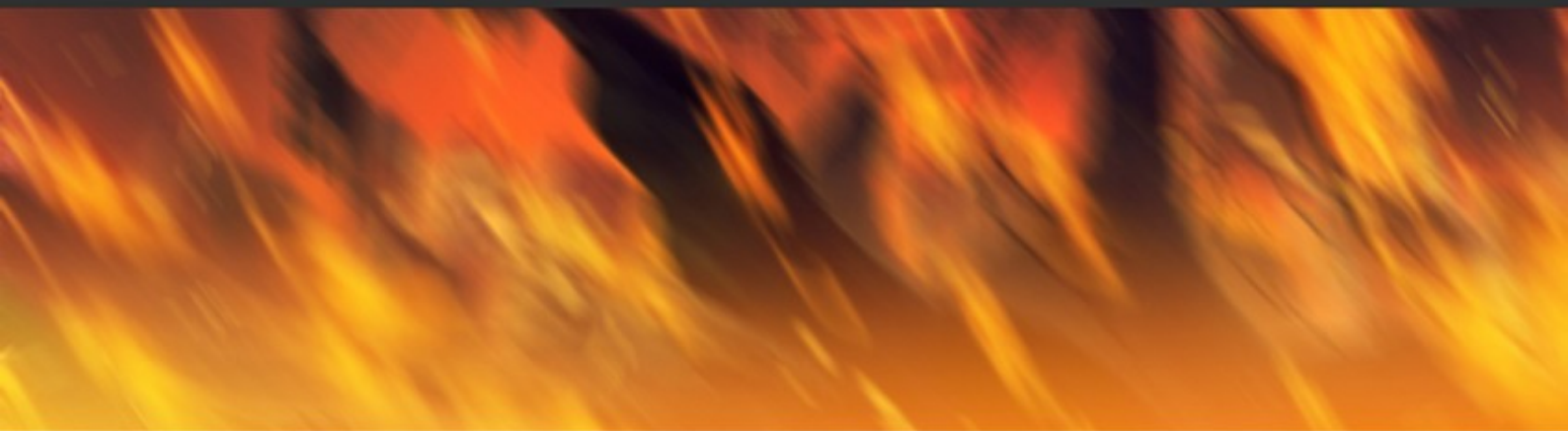
この大地は数百年にも及ぶ争いにより疲弊していた。
時には100にも及ぶ国にわかれ争いが続き いつ果てる事もないかのように思えた。
だが、プロセノス率いるレアヴァン帝国の出現により争いは終息に向かって行く。

レアヴァン帝国のプロセノスは数百年に及ぶ争いを終結させた。

しかし

全土統一した皇帝プロセノスの暴政により
人々は苦しみ 意味もなく殺され続けた。

そのため、統一したかに見えた帝国も反乱が続き、
ふたたびこの世界は戦火にまみれて行く。

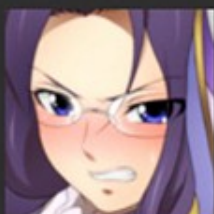


そんな中、各地を転戦し あてどもなく戦う一人の戦士がいた。
男の名はレーヴェリアス。

ある時レーヴェリアスは帝国に歯向かい滅亡の危機に瀕していた小国に加勢し敵を退けた。
その国の王は病に冒され跡継ぎもいないため、
レーヴェリアスに王位を託す。

「はからずも国を託されたが、この後私はどうするべきか」

第一章 軍師の謀反



軍師エディス

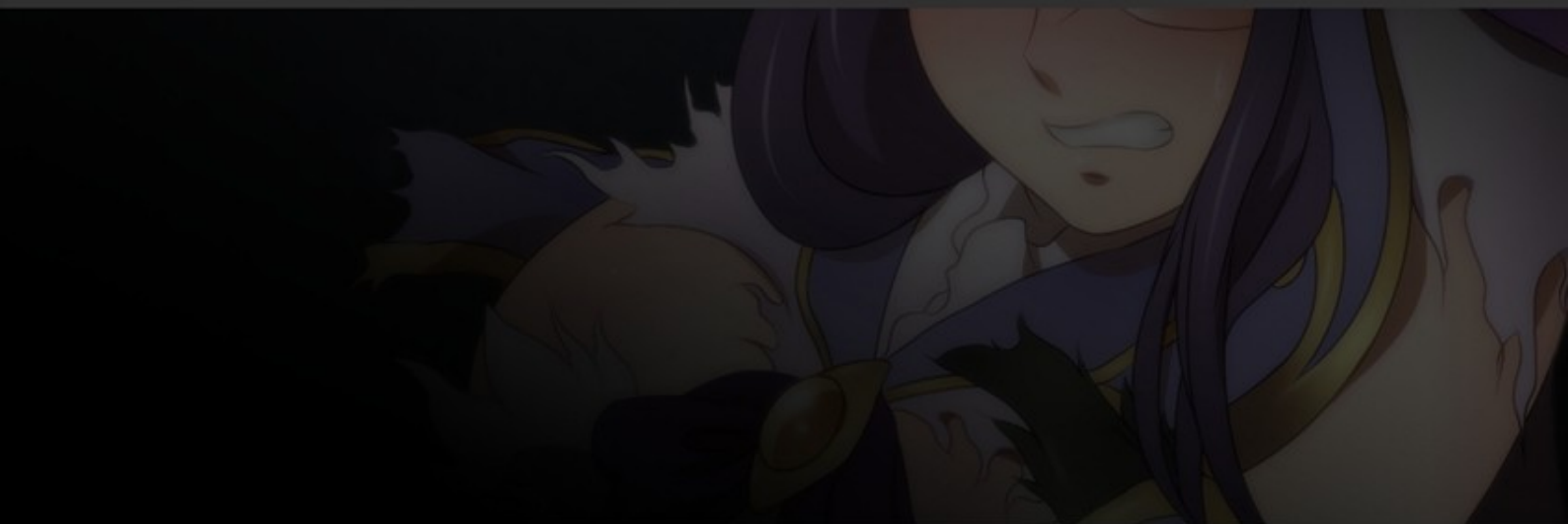
先代の王に仕えていた軍師

冷静沈着な性格

先代の言葉に従いレーヴェリアスを
快く向かえたかのように見えたが...

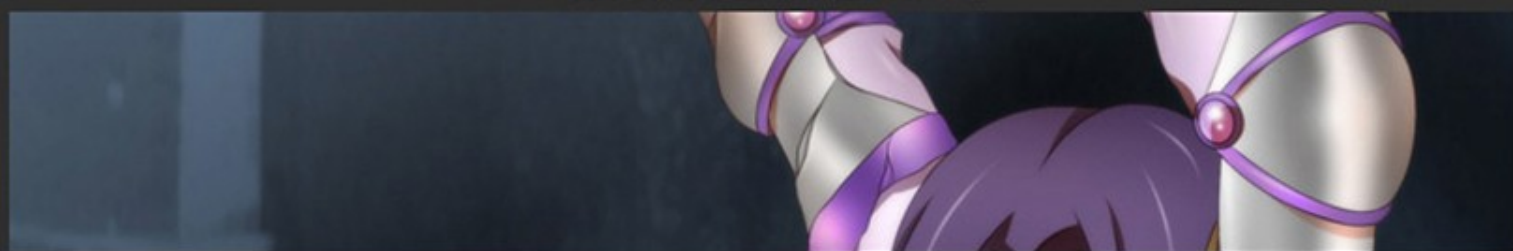
王位を継ぎ、しばらくして

不穏な動きを感じ、謀反の動きを事前に察知
前の王の軍師エディスを捕らえる



長年、戦場で研ぎすませて来た俺をあなたに預けては困る

他に仲間がいなかはいてもらぞ
「私は貴様を王とは認めん！」





レーヴェリアスよ！

私はお前を
王とは認めんぞ！！





エデイスよ
今回の件
貴様一人の謀略では
あるまい

他の仲間に
ついて吐いてもらおうぞ

口は割らなかったがエディスの関係者を調べさせ
重臣の娘ベアトリスにたどりつく
「ふん！ 好きにするがいいわ」





重臣の娘ベアトリス
この者が首謀者か





一度この国の危機を
救ったからって認めない！
あなたこそが
この国に対する謀反人よ！

殺されたって
あなたを許さない！！

処断するように求められたが、何処の馬の骨とも分からぬ俺が継いだ事に叛旗を翻すのも当然の事
このまま家臣として仕えてもらおう
「よかろう、この俺がこの国を見事治められるかどうか見届けるがいい」

エディス、ベアトリス
「.....」





ベアトリス

重臣の娘

気が強い性格でプライドも高く
中々他人を認める事がないが、
一度認めた相手には献身的に接する
意外にも公平で能率よく仕事をこなし、
民衆への思いも強い為、内政面で能力を発揮する

第二章 王女ロレーナと女騎士ヴァイラ



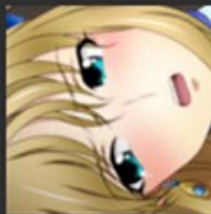
女騎士ヴァイラ

隣国エールミルの女騎士

気性が荒く男嫌い

ロレーナとは幼なじみで

彼女を守るため誰よりも強い騎士になろうとしている



王妃ロレーナ

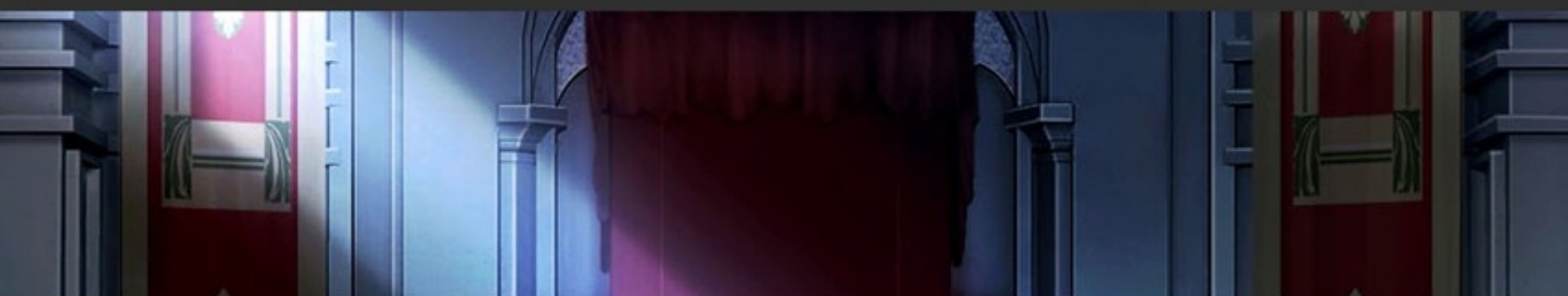
帝国領の隣国エールミルを

父の戦死により若くして継いだ王女

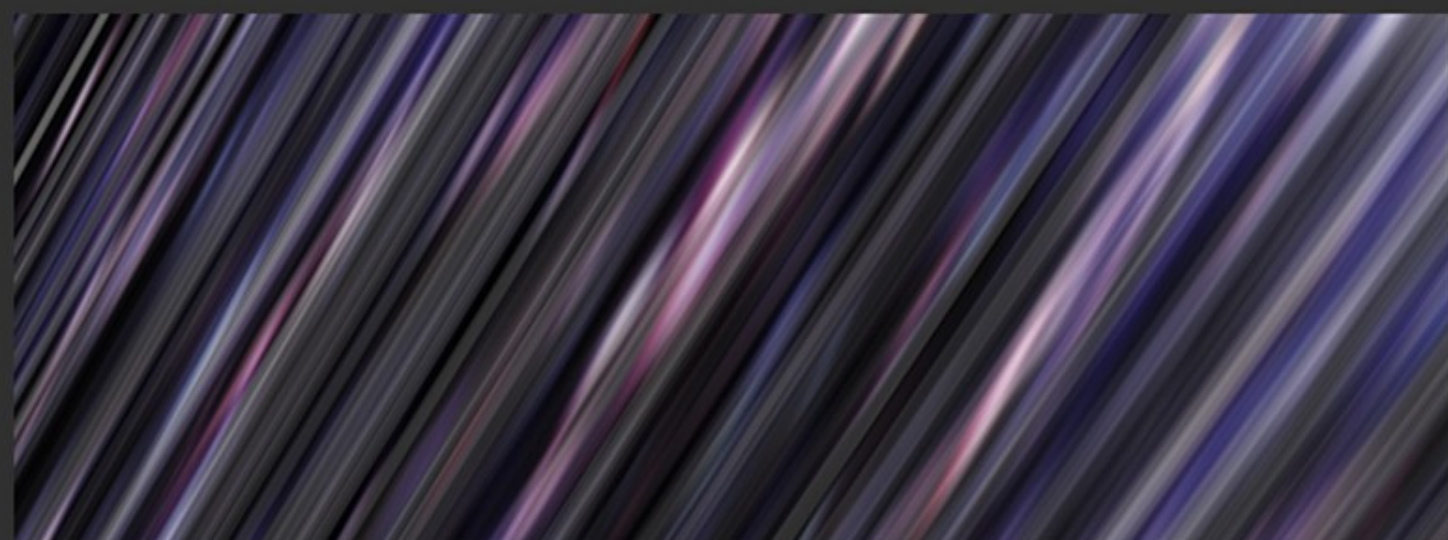
民に慕われるが、優しい性格のため争いには向かない

この国は隣国エールミルに屈強の戦士がいるため何度も亡国の危機に瀕していた
エールミルは帝国領、敵対勢力であるこの国を放っておくはずもない

そのエールミルが攻め込んで来た
謀反騒動も覚めやらぬ中、敵の猛将ヴァイラの猛攻にあがなう手段もなく窮地に陥る

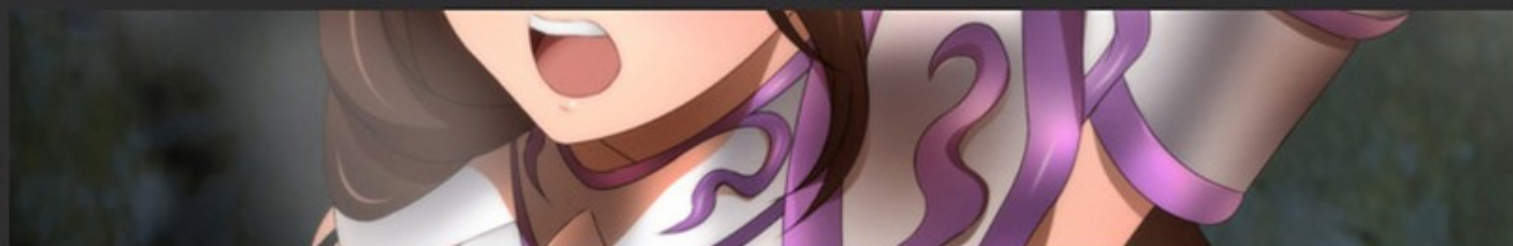


そんな中、
軍師エディスが策を提案する
エディスは以前の王にも度々策を提言していたが、
慎重すぎる先王は採用する事がほとんどなかったらしい
「よし、危険は伴うが採用しよう」



俺が囧になる事で気が高ぶりやすい
猛将ヴァイラを罠に誘い込み、捕らえる事に成功する

「くそっ 触るな！ くっ・・・姫様だけは守らねば！！」





くそっ
男ごときが
私に触るな！

後で
叩きのめしてやる
!!

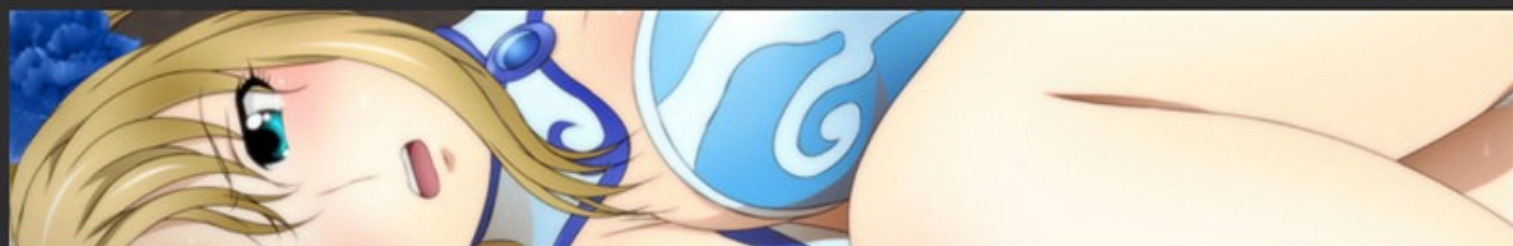






いいか！
姫様には
姫様には、絶対に
手を出すなよ！！

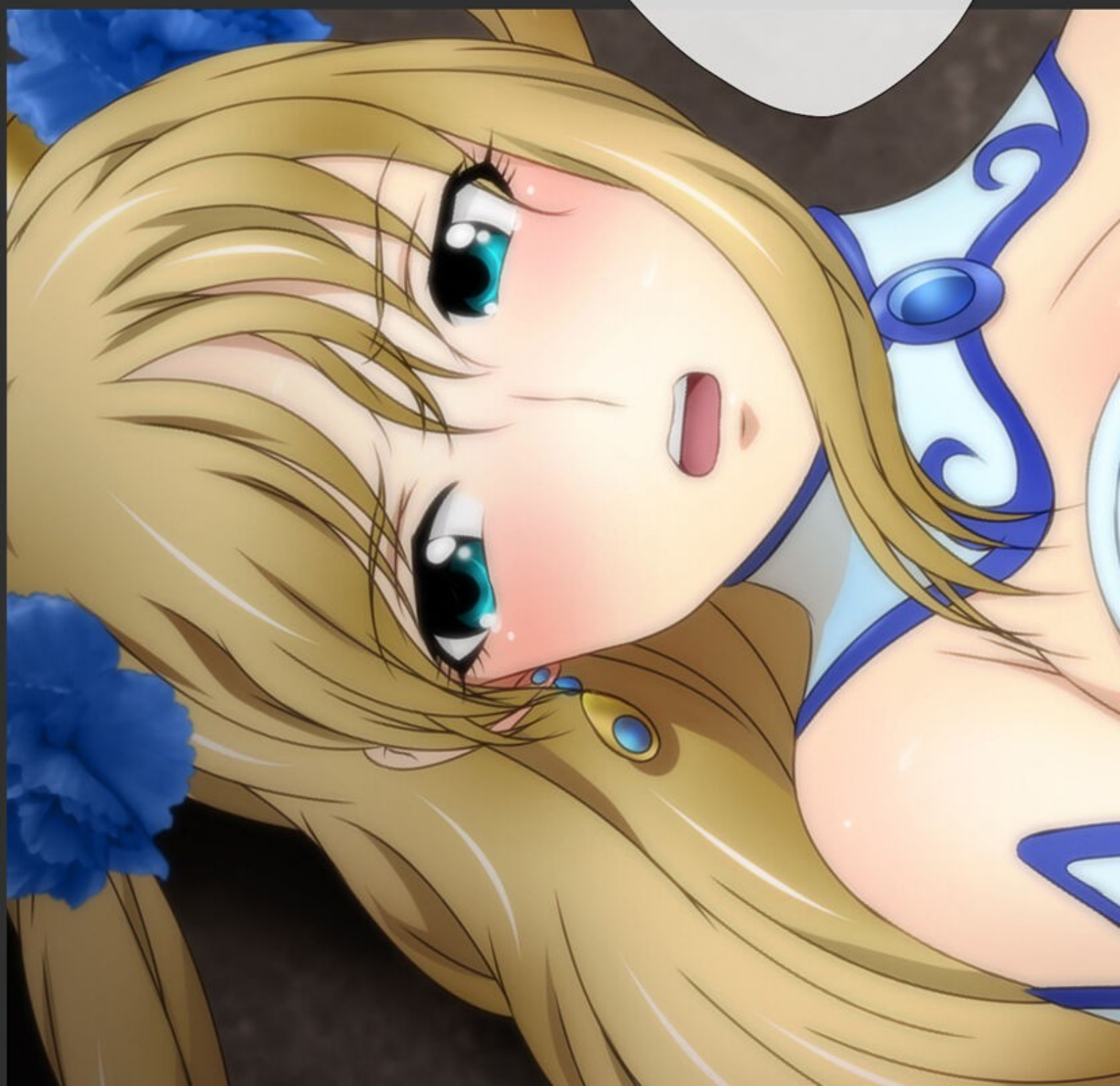
この勢いで敵国に侵攻し王女ローナを捕らえる
王女ローナは優しいがゆえに乱世には向かない性格だった
「・・・わたしはこの国を守れませんでした」







ああ…



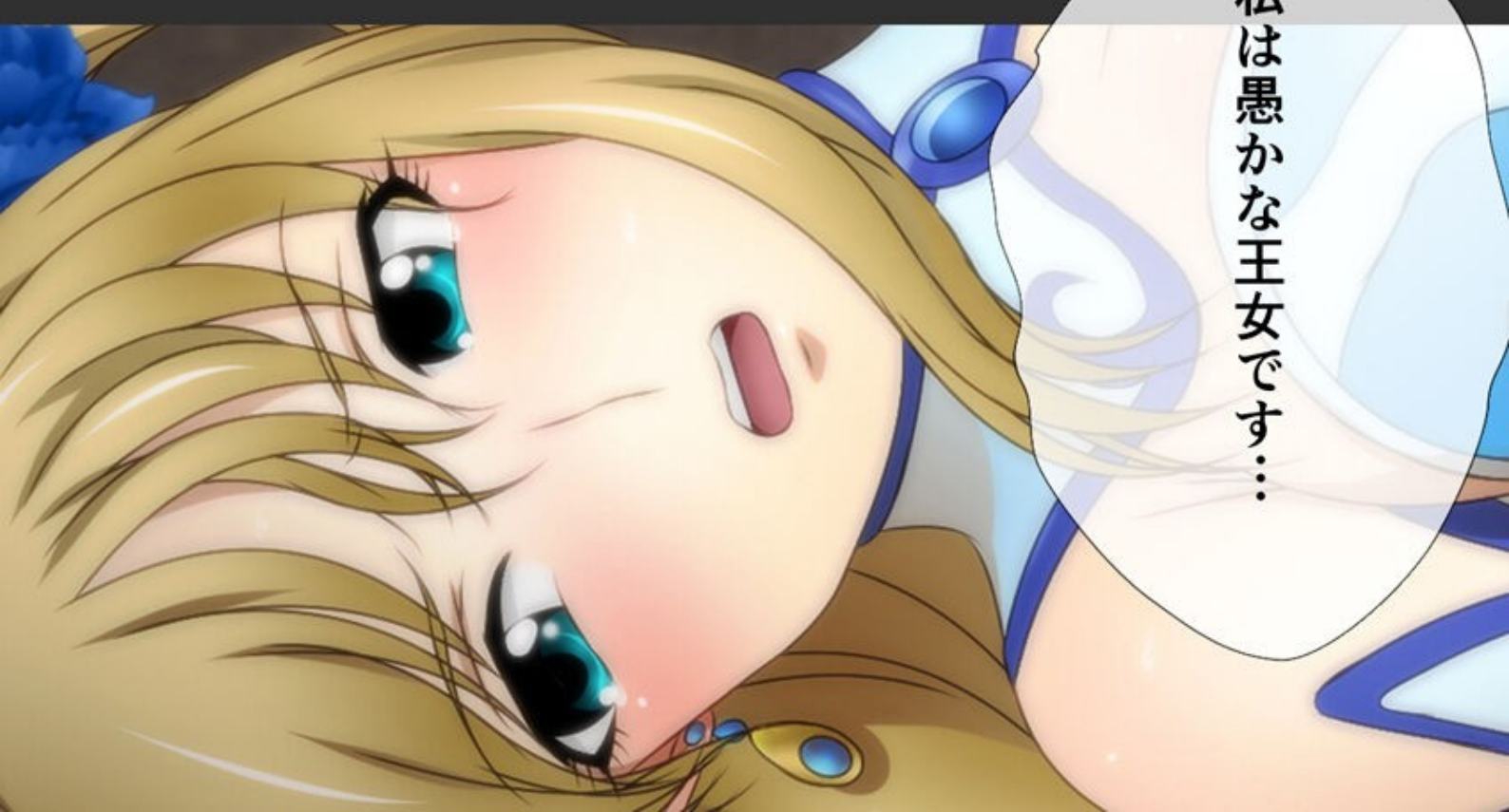






ヴァイラ…

お父様……



私は愚かな王女です…

けっして戦いに向いた王女ではなかったが、善政を敷き民に慕われていた為、再び兵を起こそうとすればそれなりの兵士が集まるだろうとエディスは指摘する

反乱の旗印になるからと処断するように求められる
手柄を立てた軍師の意見でもある為、拒む事は出来ない

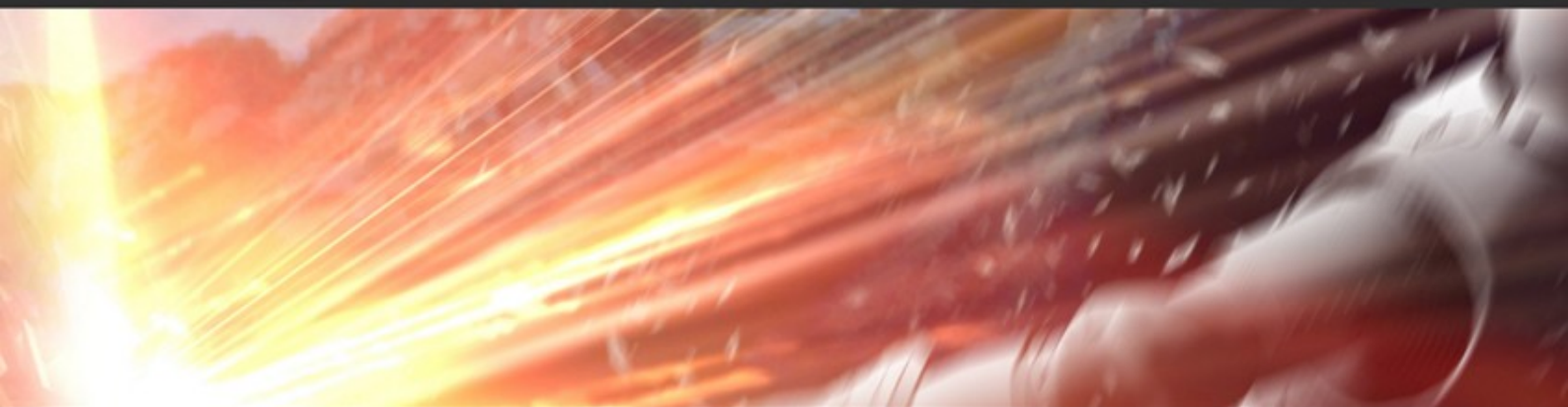
だが気が引けるためロレーナとヴァイラを夜、密かに逃す
「え？ なんのつもりよ!？」

「あなたは・・・私達を逃がすというのはですか!？」

第三章 帝国の脅威

エールミルとの戦いに勝利した事で帝国に目を付けられ屈強の兵を差し向けられる
率いるは天下に名を馳せる女将軍グレーティア

さすがは帝国の主力部隊の一角
このままでは滅ぼされてしまう！！



その時、ヴァイラとロレーナが救援に現れる
助けられた借りを返すため兵を集めて救援に来てくれたのだ

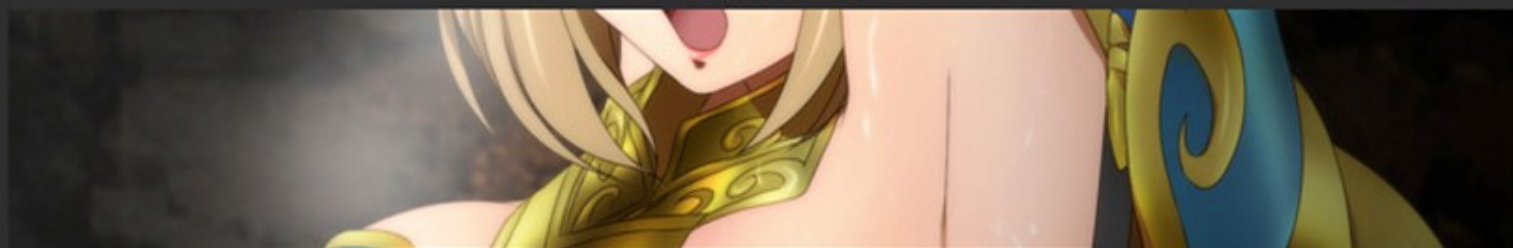
「別にあんたを助ける為に来たわけじゃないからっ・・・姫様が言うから」

「あら？ そうでしたか」

顔を真っ赤にするヴァイラ

「姫様っ！」

予想外の奇襲が帝国の軍を挟み撃ちにする形となり
軍を率いる将軍グレーティアを捕らえる
「あああっ！」





うう…屈辱ですわ…
こんな小国の王に私が……

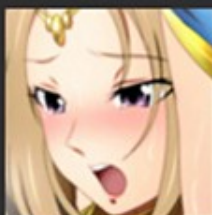




王、レーヴェリアスよ
み、見苦しいとは
思いでしょうが…

私は敗軍の将として
誇り高く死ぬべきですが
それはできません……

私には
まだ幼い子供達が
いるのです……



グレーティア

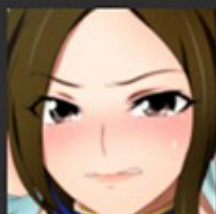
三児の母

夫は既に戦死しているが、
部隊を引き継ぎ勇猛に戦い帝国の主力部隊の一角を担うようになった
祖国は帝国に滅ぼされており今は2度目の再婚
密かに帝国には怨みを持っていた

第四章 侵攻戦



帝国を一時退けた事により有名になり、反乱の旗印として続々人が集まってくる
帝国の脅威に対抗する為、帝国の勢力下で不満を持つ国々や
脅威に対抗している国々を味方に付けにいく
交渉が決裂した国とはやむをえないが戦うしかあるまい



麗姫

絶世の美女と謳われる名門貴族の娘
その美しさから帝国支配下の暴君に無理矢理側室にされそうになるが、
必死に拒んだ為、地下牢に幽閉されている
気高くプライドも高い

帝国支配下の国で幽閉されていた絶世の美女と謳われる麗姫を救出する
「あなたたちは何者です！？」





屋敷の地下牢に女が
この者が絶世の美女と言われる
麗姫か

たしかに美しい：だがその美しさは
外見以上に内面の気高さから
来るものかもしれない







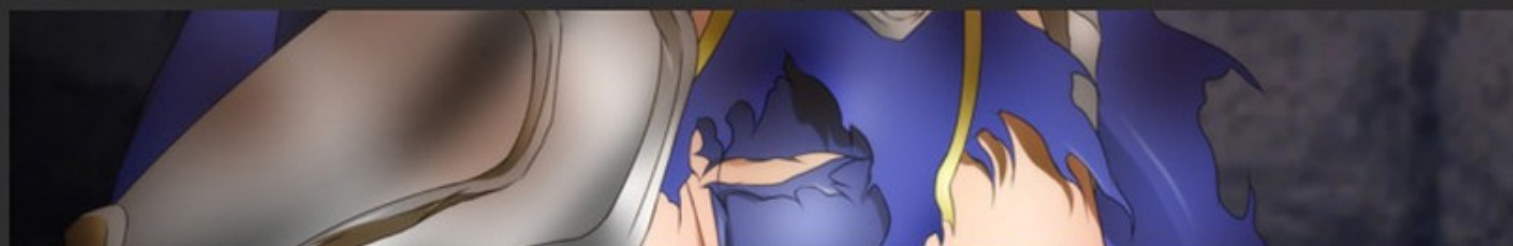
あなた方は
何者です!?

あなた方も
あの卑劣な輩の
仲間なのですか!?



麗姫を救出した後、
帝国に不信を持つ国の一つと交渉を始める
しかし、「自らだけで戦う」と主張する
騎士団長のジャンヌと意見が対立し決裂
争いになる

死闘の末
女騎士ジャンヌを捕らえる
「くっ」





くっ…
神は私を見捨てたと
いうのですか？



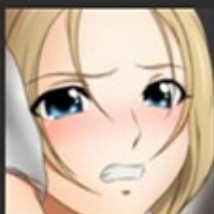
帝国を打倒する
使命はここで
潰えるというのですか…





こ…殺しなさい！

無念ですが
使命を果たせぬ私に
生きる価値はないのです！！



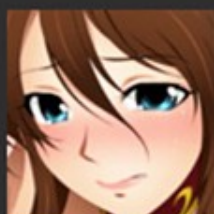
ジャンヌ

祖国を思い鋼鉄の鎧に身を包み戦う少女
真面目過ぎる性格の為、
宿命を背負い込んでしまう所がある

戦いに敗れても抵抗を続けるジャンヌに
「共に戦う事も出来るはずだ」

懐かしい国へ

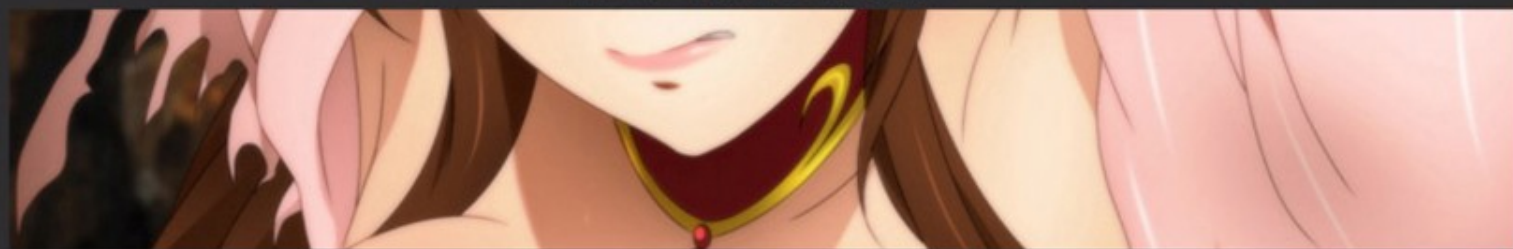
剣士として放浪していた時に、一時身を寄せていた国へと進む
その国の女王卑弥呼とは理想を語り合った事もある
しかし、そこも今は帝国領となっていた



卑弥呼

かつてレーヴェリアスが仕えていた国の王女
長身で大人びた顔立ちだが、
可憐でおっとりした性格
争いのない平和な国づくりを目指していたが、
現在は不本意ながら帝国領に組み込まれてしまった

「・・・このような形であなたと再会するなんて」
女王、卑弥呼を捕らえる



久しぶりだな

卑弥呼…





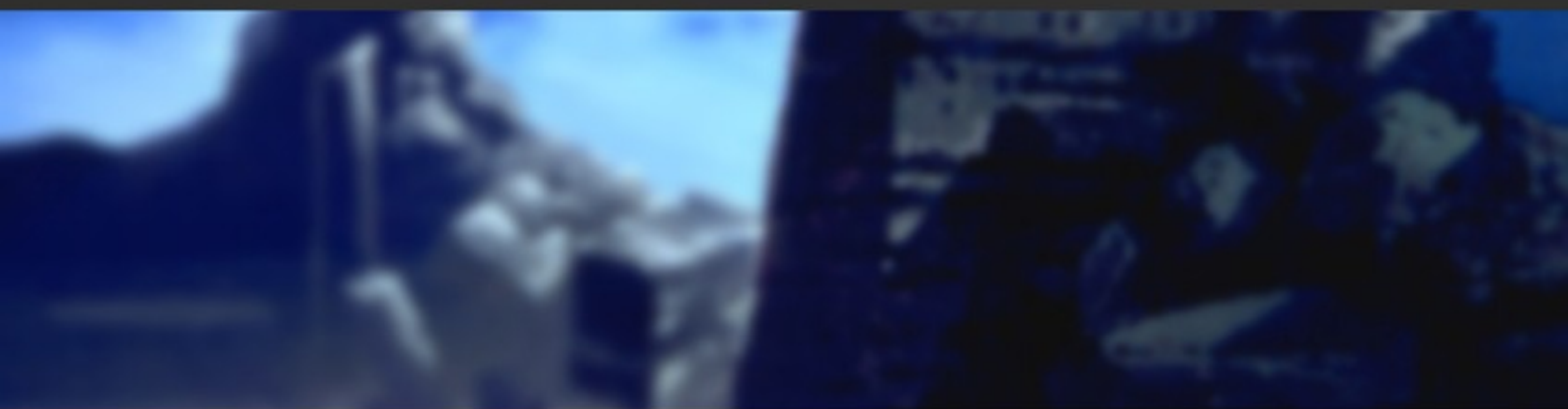
私は……
あなたに殺されるなら
本望です

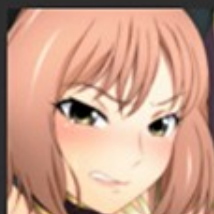
……こゝろ、殺して

第五章 大元帥フローリカ

戦いにはなったが、ジャンヌ、卑弥呼の説得に成功し
協力してくれる事となった

勢力は増えつつあるが未だに帝国は脅威だ
中でも皇帝プロセノスの娘にして史上最強の猛将レオメディス、
そしてレアヴァン帝国の天才軍師テアの前には幾度も壊滅的な被害を受け
これ以上の勢力の拡大は見込めなくなっていた

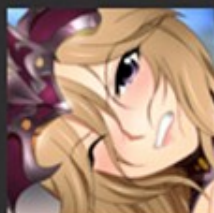




軍師テア

帝国の軍師

直情的で横暴な性格の皇帝プロセノスに
的確な軍略を授けていた
プロセノスの人格に問題はあるとしても
その強さに争いを終結させる力があると信じている



猛将レオメディス

皇帝プロセノスの娘

その力は英雄と謳われた父を越え
戦闘で勝てる者はいないと言われるほど
レーヴェリアスの元へ兵が集まる度に叩きのめす

この二人に対抗出来る大將軍の存在が必要だ

そんなおり
城に侵入した一人の少女を捕らえる
少女の名はフローリカ

「は・・・放しなさい、もし放してくれたら天下を取らせてあげるから」





まだ子供のようだな
いたずらで
城に入ろうとしたのか？



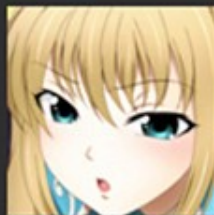


放しなさい
そうしたら…

あなたに天下を
取らせてあげるわ

フローリカは軍事に通じていたが子供という事で門前払いされていた
話を聞いてもらうためわざと捕まったらしい

話を聞くとその見識の高さに驚かされる
こんな所に人材がいたのか
起死回生の策としてフローリカを大元帥に抜擢する



大元帥フローリカ
まだ幼いが軍事の才能は天才的
クールな性格だが
まだ子供のせいか寂しがりな所がある



軍師エディスが本国で侵攻を防いでいる隙にフローリカが別働隊で敵の補給路の掌握と敵勢力の平定をする作戦を提案

その案を採用する

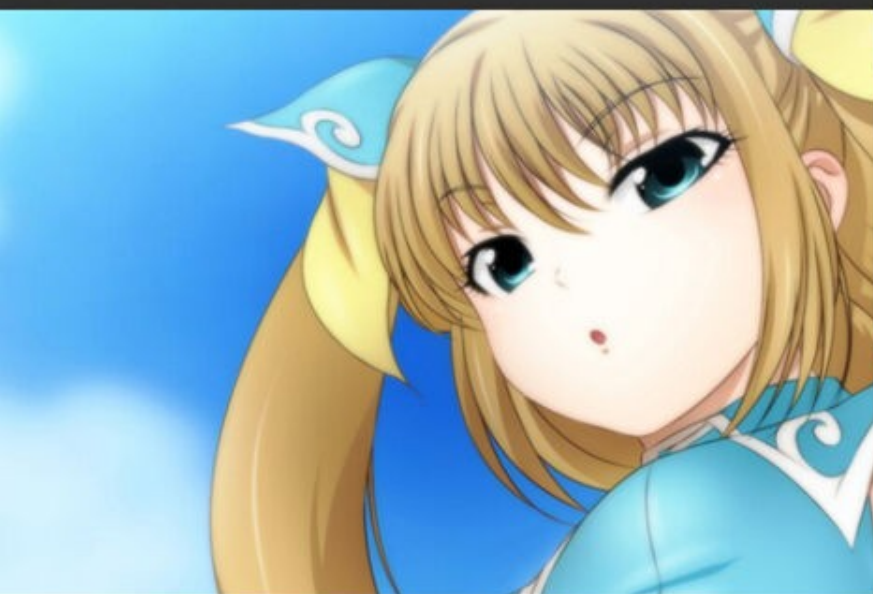
フローリカは戦いの天才ではあるがまだ子供だ

本国に影武者を立て私も付いて行こう

王の姿では、指揮に影響が出るため姿を変えてはみたが
戦場に於いては王であっても大元帥に従わねばならない・・・ということで

フローリカに散々コキ使われる

「うぬ・・・子供のくせに」



だが、まだ子供のせいか寂しがりな所もあるようで、
突然、布団に入り込んで来たフローリカに絵本を読まされる
「軍学書を丸暗記するお前がこんな本面白いのか」

「いいの・・・読んで」

戦火で散った父の形見らしい

フローリカは子供という事をあえて広める事で
敵を侮らせ次々に城を攻略していく



ここまでの戦果を踏まえ警戒し侮る事のない敵も、
臨機応変に変化するフローリカの策により撃ち破った

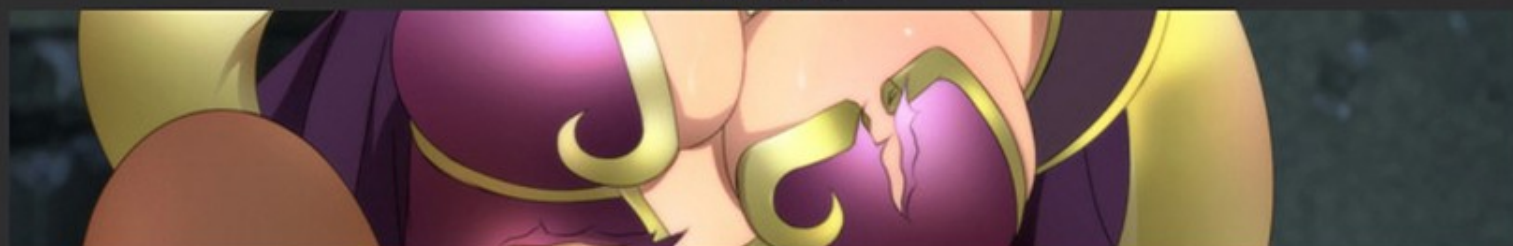
一気に形勢が逆転する

第六章 軍師テア

皇帝プロセノスの横暴な態度に敵陣に不満が募り
謀反が相次いでいた、
そんな中、軍師エディスは敵の軍師テアに謀反の疑いがあるとの
噂を広め、疑い深くなっていたプロセノスとの離間を計る



孤立した敵の軍師テアを捕らえる
「おのれ！」





謀りおって!!

ふっ…テアよ
貴様、軍師であろう？
謀られたことは貴様の恥
私が罵られるいわれはないわ

くっ……



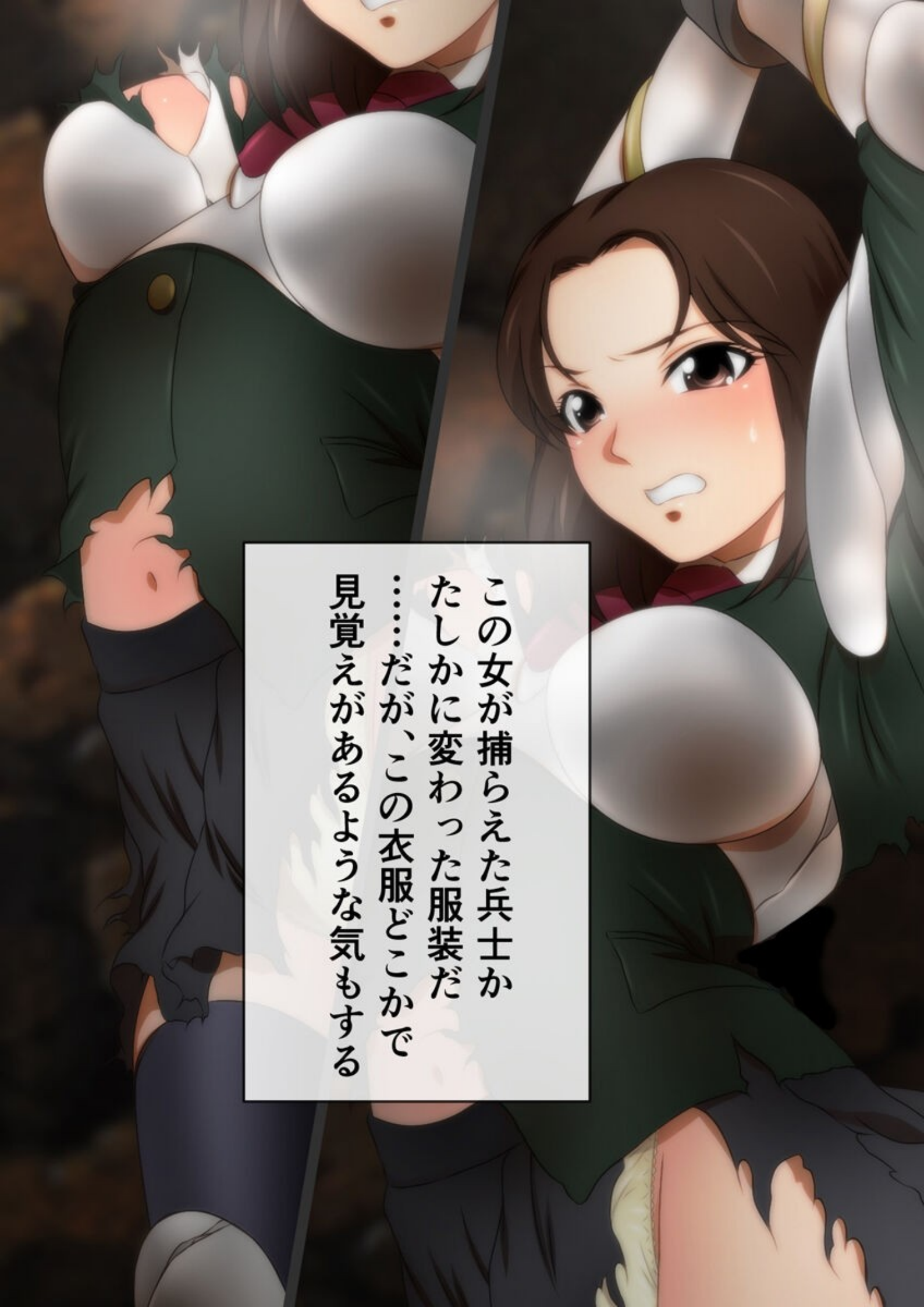


軍師エデイス
覚えておけ！

各地を平定した事で本陣に合流し、テアを処断寸前だったエディスを制止する
敵対していたとはいえ、その才能は惜しい
テアを解放する
「・・・貴様がレーヴェリアスか」
テアは帝国にはもう勝ち目がない事を悟り戦場から去って行く

不在の間、変わった女騎士を捕らえていたという
「わたしをどうするっていうの・・・!?」
その異質な衣装にどこか懐かしさを覚える





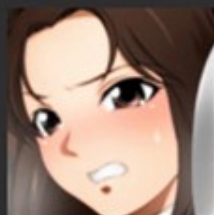
この女が捕らえた兵士か
たしかに変わった服装だ
……だが、この衣服どこかで
見覚えがあるような気もする





くっ…皇帝さん

わ、わたしをどうする気？



夏野寛美

どこか懐かしさを覚える格好の少女
異世界から来たと主張するが・・・

第七章 レオメディス

各地を廻り得て来た戦力が次々に本国に合流し
フローリカの指揮のもと帝国との最終決戦が始まる

総攻撃が始まる
兵力では既に上回っている
しかし、帝国は未だに強くこの兵力を持っても戦いは拮抗する
激しい戦闘によりフローリカは一時後退

勢いに乗る帝国軍

だが戦いの最中、敵軍にクーデターが起こりプロセノスは娘レオメディスに倒される
レオメディスはプロセノスの娘であるが誇り高き戦士でもあり、
常々プロセノスの暴政には疑問を持っていた

レオメディスは前皇帝の暴政を否定しつつも国のプライドを賭け決戦に挑む

ジャンヌ、ヴァイラ、グレーティアの率いる3軍の攻撃にも持ちこたえるが、
フローリカの作戦によりレオメディス軍の孤立に成功
フローリカの指揮する総攻撃によって壊滅的な打撃を与える



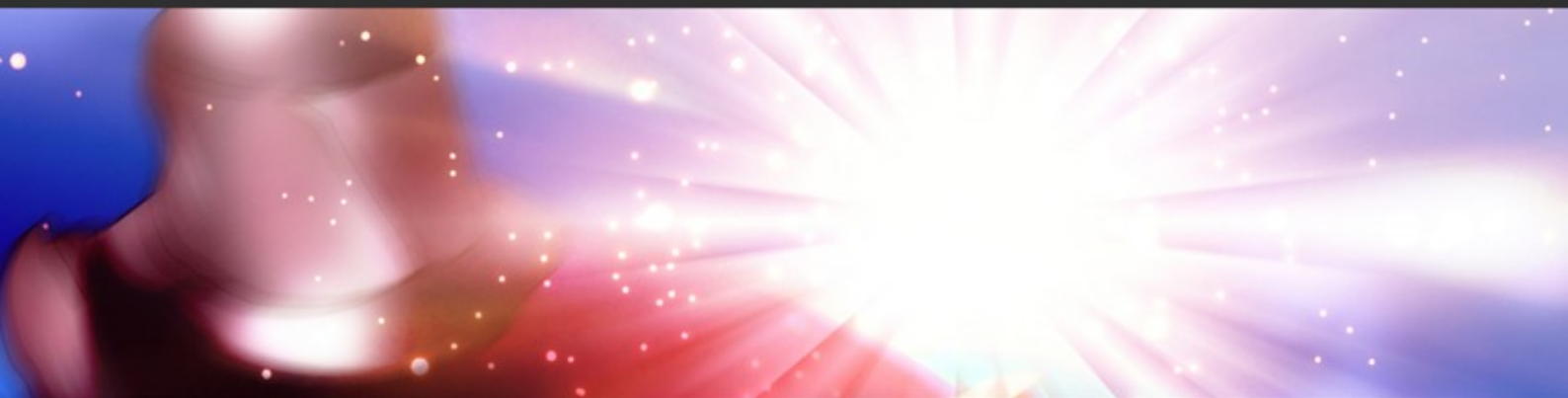
残る敵軍の兵を蹴散らし、
レオメディスを追いつめる事に成功するが一騎でありながら次々と囲む兵士達を打ち倒して行く
「ここまで追いつめても倒しきれんか」
その意気を感じ入ったレーヴェリアスは一騎打ちを挑む

「ちょっと、何を考えてるの？ ここであなたがやられたらすべてが台無しになるわ」

フローリカの制止を振り切り

互いの渾身の一撃がぶつかり合う

剣と剣がぶつかり合い戦場を共に戦い抜いた愛刀が碎け散る！



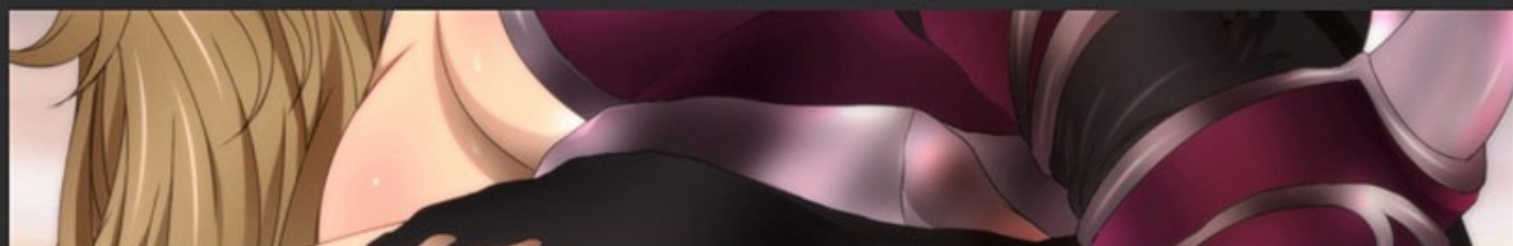
だがそれはレオメディスも同じだった

刀と共に鎧が碎け散るレオメディス
「皆の力でレオメディスの力を削いでいなければ確実に負けていたな・・・」

「ばかね」

安堵の表情を浮かべながらも、フローリカが呆れたように呟く
「下手をしたらあなたがやられていたわ」

「くそっ 殺すがいい！」





だが……

見事だ
レーヴェリアス







くっ！

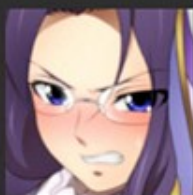
さあ！
殺すがいい！！

民を救うため、父である暴君を打ち倒した
苦渋の決断だったであろう
レオメディスと私の望んでいる世界は遠くはないのかもしれない
その力我が国のため役立たせてくれ

数百年に渡る戦乱の世はここに終結した



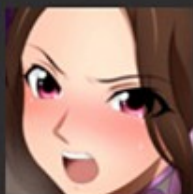
戦いも終わり部下達から祝福の声が



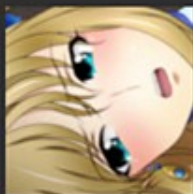
エディス「流石です王様」



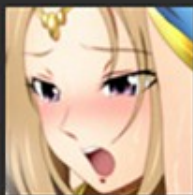
ベアトリス「へ〜やるじゃない！ 惚れ直したわ！」



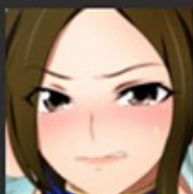
ヴァイラ「あ、あなたの事認めてあげるわ」



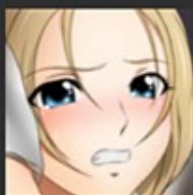
ロレーナ「わたくしが見込んだ通りのお方でした。これからも王様の為に身を捧げます」



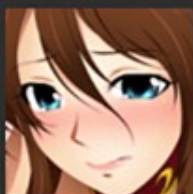
グレーティア「子供達もなついておりますし、わたくし・・・あなたとなら」



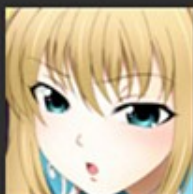
麗姫「これからどのような国を作って行くのか、傍らで見守らせていただきます」



ジャンヌ「これからもあなたと共に歩んで行きたい」



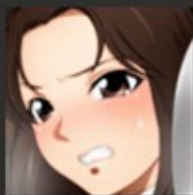
卑弥呼「王様、出来ればあなたとこの大地に恒久の平和を築いて行きたいのです」



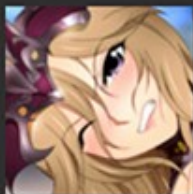
フローリカ「わたしの立てた作戦なんだから当然ね・・・でも、あなたがいてくれたから出来た事だけど・・・」



テア「世界に平和をもたらす英雄はそなたの方だったようだ」



夏野宏美「本当に平和をもたらすなんて・・・カッコいい！」



レメディオス「お前は・・・私にも新しい世界を見せてくれるというのか・・・」

最後にエディスが

「レーヴェリアス様。先代は常々、跡継ぎをもうけなかった事を悔やんでおりました」

「？」

「先代の遺言通り跡継ぎを作らねばなりません！」

エディスが真顔で聞いてくる

「誰を妃に向かえますか？」

一同「！」

「なに・・・？」

完

『囚われの女騎士、囚われの姫 レーヴェリアス戦記』



囚われの女騎士、
囚われの姫
レーヴェリアス戦記

宿借り源八郎

帝国の暴政が続く大地で、放浪の戦士レーヴェリアスは、
帝国に歯向かい滅亡の危機に瀕していた小国に加勢し、敵を退けた事から、
病床の王より王位を託される。
「はからずも国を託されたが、この後私はどうするべきか」

『レーヴェリアス戦記2 くすぐりの女騎士、くすぐりの王女』



レーヴェリアス戦記2
くすぐりの女騎士、くすぐりの王女

宿借り源八郎

それぞれの能力に秀でた臣下達の活躍により、
暴政を敷く帝国を打ち倒し、新たな王朝を築いた皇帝レーヴェリアス。
しかし、軍師エディスにより、共に戦った功臣達の謀反の疑いが伝えられ…。

『レーヴェリアス戦記3 絶体絶命の大元帥！ フローリカ背水の陣！！』



レーヴェリアス戦記3
宿借り源八郎

暴政を敷く帝国に対抗するため、少女でありながらも才能を見込まれ、
大元帥に抜擢されたフローリカ。その軍略で帝国支配下の国々を降して行くが、
30万の軍勢を率いる大国パルジャクス王国の前に3万の軍勢のフローリカは絶体絶命の窮地に！！
強大な敵を前にフローリカがとった起死回生の策、背水の陣とは…！？

『王宮の嫁選び ～女騎士達に迫られる～ レーヴェリアス戦記』

王宮の 嫁選び



レーヴェリアス戦記

宿借り源八郎

女騎士達に 迫られる

レーヴェリアスが暴君プロセノスを打ち倒してから数年。
皇帝となったレーヴェリアスは年齢が経過しないという不老の季節の間、戦乱の復興に尽力する。

そんな中、レーヴェリアスは妃選びに頭を悩ませていた。
妃の座を狙う軍師エディスは惚れ薬を使い自らを妃にしようと企むが…。

『レーヴェリアス戦記総集編1 囚われの女騎士、囚われの姫』



レーヴェリアス戦記総集編1
囚われの女騎士、囚われの姫

宿借り源八郎

囚われの女騎士、囚われの姫をテーマにした
『囚われの女騎士、囚われの姫 レーヴェリアス戦記』を始め、
続編の「レーヴェリアス戦記2 くすぐりの女騎士、くすぐりの王女」、
「絶体絶命の大元帥！ フローリカ背水の陣！！ レーヴェリアス戦記」
を収録した総集編イラストCG集！！

